

Moog Multimode Filter Collection

クラシックな Moog フィルター・サウンドとクリエイティブなモジュレーションの世界

Moog のフィルターは、60 年代の Moog modular synthesizer の重要なパートとして、また今日まで 70 年代の Minimoog も欠かせないパートとして、特別な存在であることを否定することはできません。シンセサイザーのフィルターデザインの挑戦を表すこれらのクラシックな VCF (ボルテージコントロールド・フィルター) サーキットは、マッシュなトーンと直感的にシェイピングが可能なフィルターのレジェンドです。

UAD-2 ハードウェアと Apollo インターフェイス専用の Moog Multimode Filter Collection は、パワフルなモジュレーション機能とコントロール機能を備えた本物のアナログサウンドの Moog filter のエミュレートを提供しています。ミックスでのトーンシェイピングの秘密兵器として、ライブパフォーマンスでクリエイティブなカオスのソースそして使用してもこの新しいエミュレーションは、Moog の血統を持つサウンドのすべてを提供します。



Moog Multimode Filter XL のインターフェイス

警告:

他の多くのレゾナント・フィルターのよう Moog Multimode Filter Collection には出力振幅が予想しない値に上がってしまうことがあり、予測できないサウンドを生み出す可能性があります。ソースの種類や入力レベルとパラメーター値に応じてフィルター出力が大きくなり、スピーカーや聴力に損害を与える可能性があります。

ハイゲイン、ロー・フィルター・カットオフとハイ・レゾナンス値が同時に設定され、LFO がこの状況をスイープする場合に特に起こりやすくなります。スピーカーや聴力への悪影響を避けるためにモニターレベルを低くし、極端なパラメーター値にダイヤルしないように注意してください。

Moog Multimode Filter ファミリー

Moog Multimode Filter Collection は、3 種類のプラグインで構成されています。:

Moog Multimode Filter XL、Moog Multimode Filter、Moog Multimode Filter SE

Moog Multimode Filter XL

Moog Music の主任研究員 Cyril Lance と共同開発した Moog Multimode Filter XL は、UA のもととの Moog Multimode Filter をやめるところから始まりました。フィルターのエミュレーションが改良され、新しいレベルのアナログ・リアリズムがもたらされました。フィルタースロープの選択、カットオフ周波数の幅広い選択、新しいノッチフィルター・モードの採用によりサウンドの柔軟性が向上しています。エンベロープフォロワー・サーキットは、シェイピングパラメーターとコントロールディステーションの新しい配列を備えています。

これを大幅に刷新されたモジュレーション機能と魅力的な 4 レーンパラメーター・シーケンサーと組み合わせることで、Moog Multimode Filter XL は、フィルター愛好家の夢が詰まっています。

Moog Multimode Filter XL は、真のステレオプロセッサーで、左右のチャンネルに別々のフィルターが搭載されています。デュアルフィルターは、同じコントロールを共有していますが、別々にモジュレーションすることも可能です。

Moog Multimode Filter

Universal Audio の最初の Moog filter エミュレーションとして以前の Moog Multimode Filter (以前の“Moog Filter”) は、このクラシックなフィルターの最初のソフトウェアとしての表現でした。Moog Multimode Filter XL バージョンで使用可能なすべてのモジュレーションやプロセッシング機能を提供しているわけではありませんが、簡潔なコントロールセットと適度な DSP フットプリントにより Moog Multimode Filter はリリース時と変わらず便利です。

Moog Multimode Filter SE

Moog Multimode Filter SE (以前は Moog Filter SE) は、Moog Multimode Filter から派生しています。そのアルゴリズムは、Moog Multimode Filter に非常によく似ていますが、DSP の使用量が大幅に少なく、音質を維持するために簡素化されています (主にドライブサーキットの削除)。DSP リソースが限られている状況下での使用に Moog Multimode Filter は適しています。Moog Multimode Filter SE は、ドライブを使用しなくても素晴らしいサウンドを発し、多くのシチュエーションに適しています。

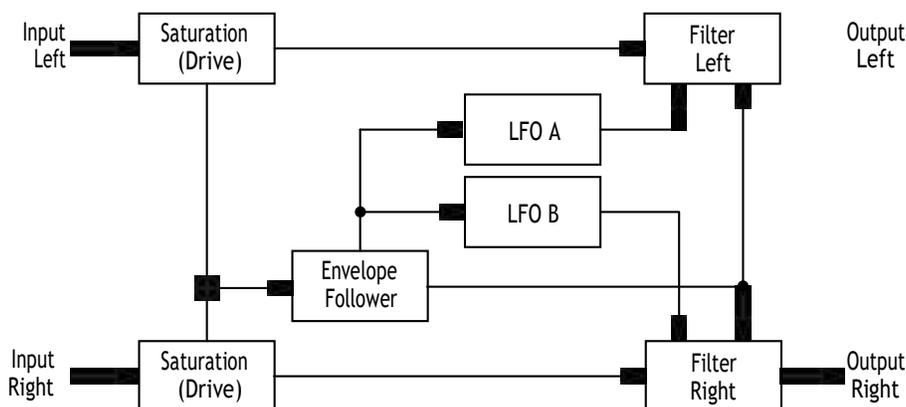
Moog Multimode Filter XL の操作について

このセクションでは、Moog Multimode Filter XL の操作概念について説明します。個々のコントロールの詳細については、このチャプターの“Moog Multimode Filter XL のコントロール”を参照してください。

Moog Multimode Filter と Moog Multimode Filter SE の詳細とコントロールについては、このチャプターの“Moog Multimode Filter のコントロール”を参照してください。

シグナルフロー

プラグイン内のオーディオとコントロールボルテージ・シグナルの経路の簡略化されたバージョンを下図に示します。このシグナルフローを理解することでプラグインの動作をよりよく理解し、必要な結果をより迅速に得ることができます。



Moog Multimode Filter XL のシグナルフロー

コントロール・グループ

関連したコントロールは、インターフェイス内の機能によってグルーピングされています。対象のグループを以下に示します。詳細なパラメーターの説明については、このチャプター後半のコントロールの詳細を参照してください。

インプット

インプットコントロールは、フィルターサーキットへのインプットゲイン/ドライブ、プラグインバイパスや電源状態に影響します。

エンベロープ

Moog Multimode Filter XL のモジュレーション・サーキット、またはフィルターのカットオフ周波数は、プラグインにインプットされるシグナルの振幅によって調整することができます。この機能は、シグナルのインプット・レベルに“フォロー”するため、通常は“エンベロープフォロワー”と呼ばれています。エンベロープセクションには、エンベロープフォロワーのコントロールが含まれています。

モジュレーション

モジュレーションセクションには、A と B のラベルが付けられた 2 つの独立した LFO (ローフリークエンシーオシレーター) があり、これを使用してフィルターのカットオフフリークエンシーをモジュレートすることができます。複雑な相互作用を得るために各 LFO を別々のレートや波形に設定することができます。

フィルター

フィルターセクションは、フィルターのサウンド、シェイプ、動作をコントロールします。フィルターのカットオフとレゾナンス・コントロール、フィルターモード、スロープ、コントロールのスムージング、左右のフィルターのフリークエンシー・スペーシングがここにあります。

アウトプット

アウトプットセクションでは、最終アウトプットのボリューム、ウェット/ドライ・ミックス、ステレオ/モノラル・オペレーション、左右のバランスをコントロールします。

シーケンサー

シーケンサーは、Moog Multimode Filter XL のもっともパワフルな機能の 1 つで 4 レーンのフレキシブルな 16 ステップシーケンスを提供します。各レーンは、フィルターカットオフ、LFO スピード、エンベロープ量などの幅広いパラメーターをコントロールすることができます。シーケンサーは、リズムを DAW テンポに合わせるためにクロックに同期させることができます。



アーティストプリセット

Moog Multimode Filter XL には著名アーティスト作成のプリセットが含まれています。一部のアーティストプリセットは、ファクトリーバンクにあり、ホストアプリケーションのプリセットメニューからアクセスすることができます。追加のアーティストプリセットは、UAD インストーラーによってディスクにコピーされます。追加のプリセットは、UAD ツールバーの“Settings”メニュー、または Apollo の Console 2 のプリセットマネージャーを使用してロードすることができます。

Moog Multimode Filter XL プリセットは分類されています。各プリセットには、標準的な使用例を表す名称がついています。:

FLTR - フィルター、サチュレーター、エンベロープ・エフェクト

MIX - インプット・オーディオをエンハンスするために便利なミックスエフェクト

LFO - 主に LFO でドライブするエフェクト

SEQ - 主にシーケンサーでドライブするエフェクト

FX - メロディ、またはシンセサイズ・スペシャルエフェクト (通常はオーディオインプットが不要)

Moog Multimode Filter XL のコントロール

注: 一部のノブの設定は、グラフィカル・ユーザーインターフェイスのスクリーン番号と比較して、実際のパラメーター値と一致しない場合があります。プラグインが DAW 内のパラメーターリスト・モードで表示されると実際のパラメーター値が表示されます。

インプットコントロール

ドライブ

ドライブはフィルターの前サチュレーション・ゲインの量を調節します。ドライブは UAD Moog Filter フィルターの音の“本質”が始まる場所です。特にブースト・スイッチと組み合わせて使用する際、シグナルをクリーンからオーバードライブさせ、歪んだ音に変えることができます。

ドライブ/ゲインの範囲は 0~+40dB のゲインです。ドライブ/ゲインはウェット/ドライ・シグナルの両方に影響を与えます。ミックスがゼロ、バイパスされていてもコントロールは聞こえます。このゲイン・レンジは Minimoog の外部入力セクションに非常に似ています。

ドライブ LED

ドライブの三色 LED は、ドライブ/ブーストのコントロール直後のプラグインレベルを表示します。ドライブ LED は、プラグインがバイパスのときは動作しますが、電源がオフのときは動作しません。シグナルレベルが低い場合、LED は消灯します。シグナルレベルが上がると LED が点灯し、緑から黄色、赤色に進みます。LED が赤色の場合、シグナルレベルは、0 dBFS です。

ブースト(+20)

ブースト(+20)をオンにするとドライブサーキットのゲインレンジが 20dB 増加します。ブースト(+20)は、ドライとプロセッシング・シグナルの両方のパスに影響を与えます。ブーストは、インプットシグナルが低いときやレベルを上げたり、歪みやサチュレーションを加えたい場合に役立ちます。

ブーストは+20 ボタンが点灯時に動作しています。

バイパス

バイパスがオンになっていると、フィルタープロセッシングは無効になります。インプットとアウトプット・セクションは、バイパスモードでも動作します。バイパスをオンにすると、MIX をゼロに設定した場合と同じ効果があります。

ボタンが点灯しているときはバイパスになっています。

パワー

パワーは、プラグインを完全にオフにし、DSP プロセッシングを無効にします。ボタンが点灯しているときはパワーがオンになっています。

エンベロープのコントロール

センシティビティ

センシティビティは、インプットシグナルがエンベロープフォロワーに入力される時のレベルを設定します。エンベロープのディステーションパラメーターをモジュレーションするためにインプットシグナルの アンプエンベロープを使用する量をコントロールします。インプットシグナルのラウドネスとダイナミクスに合わせてこのコントロールを設定します。

ヒント: センシティビティ・コントロールとアマウント・コントロールはインタラクティブに動作します。

エンベロープ LED

この LED はエンベロープのピークを示します。エンベロープ LED はプラグインがバイパスモードのときやパワーがオフのときには点灯しません。

アマウント

エンベロープアマウントは、エンベロープのディステーションがインプットシグナルのダイナミクスから受ける影響の度合いを設定します。値には、ポジティブとネガティブがあります。

注: エンベロープモジュレーションを聞くには、アマウントを 0 以外の値に設定する必要があります。

ポジティブ値は、インプットアンプリチュードが大きくなるにつれてエンベロープのディステーション量が大きくなります(例:シグナルが大きくなるにつれてフィルターが開く)。ネガティブ値は、インプットアンプリチュードが大きくなるにつれてエンベロープのディステーション量が小さくなります(例:シグナルが大きくなるにつれてフィルターが閉じる)。値が大きくなるにつれ、フィルターや LFO のモジュレーション量が大きくなります。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると値がゼロに戻ります。

アタック

アタックは、エンベロープフォロワーがら入力されたオーディオによってトリガーされたときにピーク値に達するまでの時間を設定します。使用可能な範囲は、250mSec~2Sec です。

リリース

リリースはトランジェントの終わりなど、ボリュームが低下したときにエンベロープフォロワーが最小値に戻るまでの時間を設定します。使用可能な範囲は、150mSec~2Sec です。

注: アタックとリリースの範囲は Moog の Ladder 500 シリーズモジュールです。

エンベロープディスティネーション

ディスティネーションは、エンベロープジェネレーターによってコントロールするパラメーターを選択します。同時に最大 4 種類のディスティネーションを選択可能です。

エンベロープがコントロールするディスティネーションは、以下のパラメーターを選択可能です。エンベロープディスティネーションは、LED が点灯しているときは選択中です。

モジュレーションアマウント	フィルターカットオフ
モジュレーションレート	フィルターレゾナンス

エンベロープのディスティネーションを変更するには、以下のいずれかの操作を行ってください。:

- ディスティネーションボタンをクリックするとディスティネーション先が表示されます(シフト+クリックでは逆順に表示されます)。
- 個々のディスティネーション LED、またはテキストをクリックしてそのディスティネーションを直接選択することができます。
- シフトを押しながら複数のディスティネーションをクリックすると、エンベロープシグナルを複数のコントロールにルーティングします。

モジュレーションのコントロール

Moog Multimode Filter XL には、フィルターのカットオフフリークエンシーをモジュレーションするために使用可能な 2 基の独立した LFO があります。A と B のラベルが付いた各 LFO には、独立して機能する独自のコントロールとインジケーターがあり、両方の LFO に影響を与える中央のコントロールがあります。

LFO レート

LFO レートは、LFO が発振する周波数を設定します。Hi とシンクオプションがオフの場合、使用可能な範囲は、0.01~50 Hz です。シンクをオンにするとレートは DAW のテンポに同期します。

ヒント: シンクをオフにするとレート表示にテキスト入力して LFO レートを変更することもできます。

レート LED

LFO レート LED は、LFO サイクルごとに 1 回点灯します。

HI

LFO の HI をオンにすると、LFO のレートレンジが上にシフトし、オーディオバンドのモジュレーションが可能になります。HI がオンの時、使用可能な LFO の範囲は、0.5~ 1000 Hz です。このオプションがオンの時、HI ボタンが点灯します。

注: HI は、シンクがオフの時のみに使用することができます。

LFO シンク

シンクをオンにすると、LFO のスピードは、DAW のテンポにロックされます。LFO レートコントロールをオンにすると LFO が変化するリズム値 (DAW のテンポに比例) が設定されます。16/1 (16 小節ごとに 1 周期) から 1/64 (64 分音符ごとに 1 周期) までのビート値があります。このオプションを使用時は、シンクボタンが点灯します。

注: HI に設定されていると、同期はいつでもオフになります。

レートディスプレイ

使用中の LFO レートが表示されます。表示される値のタイプは、シンク機能の状況によって変わります (Hz/ビート値)。

ヒント: シンクをオフにするとレート表示になり、(LFO ノブだけでなく) テキスト入力を使用して LFO レートを設定することができます。

シンクオフ

シンクをオフにすると現在の LFO レートがヘルツ単位で表示されます。

ヒント: シンクがオフの時の LFO レートを変更するには、新しい値を直接入力することができます。

シンクオン

シンクをオンにすると、現在のビート値が表示されます。ビート値は、ビートの 1 つ、または複数の倍数として表示されます。

ヒント: シンクがオンの場合 LFO を変更するには、レート表示をクリックして使用可能なすべてのビート値を含むドロップダウンメニューを表示し、メニューから新しい値を選択してください。

LFO タップ

タップテンポ・ボタンを繰り返し押して LFO レートを設定することができます。2 回以上押すとタップ間の時間に合わせて LFO レートが設定されます。最初のクリック後、タップボタンは柔らかく点灯したままですが、4 回目のクリック後、または 1 回目のクリックから 4 秒後に消灯します。

注: HI に設定されているとき、タップは使用できません。

LFO ウェーブ

LFO ウェーブノブは、LFO の波形を選択します。7 種類の波形を選択可能です。: Sine、Triangle、Sawtooth Down、Sawtooth Up、Square、Random、Slewed Random。

ヒント: お好みの波形アイコンをクリックするとその波形に直接ジャンプ可能です。

LFO アマウント

LFO アマウントは、2つの LFO の合計値によってフィルターのカットオフがどの程度影響するかを設定します。±5.0 オクターブの範囲でポジティブとネガティブの値を設定可能です。

ポジティブ値は LFO の振幅が増加するにつれフィルターのカットオフを増加させます。ネガティブ値は LFO の振幅が増加するにつれフィルターのカットオフを減少させます。値が大きいほど、フィルターモジュレーション量は大きくなります。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると値がゼロに戻ります。

LFO バランス

LFO バランスは、LFO A と B で生成されるコントロールボルテージ・ウェーブフォームのブレンドを設定します。中央の設定では、2つの LFO がフィルターのカットオフに等しい比率で影響します。この機能は、Moog Sonic Six synthesizer のモジュレーションアーキテクチャーに由来します。

バランスを反時計回りに回すと、LFO A の効果が増し、LFO B の効果が減少します。完全に反時計回りに回すと LFO B の効果はなくなります。

バランスを時計回りに回すと、LFO B の効果が増し、LFO A の効果が減少します。完全に時計回りに回すと LFO A の効果はなくなります。

ヒント: テキストラベル“A+B”をクリックすると、完全にバランスの取れた LFO 値に戻ります。

LFO ワイズ

ステレオフィルターにルーティングされる前に LFO コントロールシグナルを連続的にブレンド、またはセパレートする LFO クロスフェードコントロールです。各フィルターチャンネルの LFO モジュレーションをセパレートすることにより、ダイナミック・ステレオフィルタリング効果を得ることができます。

注: ワイズセッティングは、モジュレーションアマウントがゼロ以外の値に設定され、LFO A と B が異なる設定に泣いている場合にのみ聴こえます。

ワイズがゼロ(デフォルトのセンターポジション)に設定されてると、両方の LFO コントロールシグナルが同じ量でブレンドされてからステレオフィルターに送られます。- 両方の LFO でフィルターが調整されます。この設定では、ステレオフィルターの LFO コントロールシグナルが両方のフィルターチャンネルで同じであるため、ステレオパノラマの中央でフィルターモジュレーションが聴こえます。

ワイズが増加すると LFO A は、左のフィルターチャンネルを右のフィルターチャンネルよりも多くモジュレーションし、LFO B は右のフィルターチャンネルを左のフィルターチャンネルよりも多くモジュレーションします。右回りの位置(+10)では、LFO A のみが左のフィルターチャンネルをモジュレーションし、LFO B が右のフィルターチャンネルをモジュレーションします。

ネガティブ値の場合は効果が逆になり、LFO A は、右のフィルターチャンネルを左のフィルターチャンネルよりも多くモジュレーションします。-10 では、LFO A のみが右のフィルターチャンネルをモジュレーションし、LFO B が左のフィルターチャンネルをモジュレーションします。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると値がゼロに戻ります。

LFO リセット(+/-)

LFO リセットボタンを押すと、両方の LFO をゼロクロスにリセットします。“-”ボタンを押すと、LFO はゼロから下に移動してサイクルを始めます。“+”ボタンを押すと、LFO はゼロから上に移動してサイクルを始めます。

通常 LFO はシンク・モードでない場合はフリーランですが、この動作が常に望ましいとは限りません。例えば、LFO フィルターモジュレーションを使用している場合、バウンスやミキシングの際に、再生が常に同じになるようすることができます。このようにするには、LFO を波形の同じ場所から開始する必要があります。LFO リセットボタンをオートメーション化すると、LFO を使用時に整合性を得ることができます。

注: DAW 内で LFO リセットボタンをオートメーション化するとパラメーターのオートメーションデータを受信しなくなるまで +/- ボタンが点灯します。

フィルターのコントロール

カットオフ

このコントロールは、すべてのモード(ローパス、バンドパス、ハイパス)の両方のフィルターチャンネルのカットオフフリークエンシーを 20Hz~20kHz の間で設定します。

ローパスモードでは、カットオフより上の周波数が減衰されます。ハイパスモードでは、カットオフより下の周波数が減衰されます。バンドパスモードでは、カットオフ値を中心として上下の周波数を減衰します。ノッチモードではカットオフ値を中心とする狭い帯域を減衰します。

レゾナンス

レゾナンスは、フィルターのフィードバック量を決定し、カットオフフリークエンシーでハーモニクスを強調します。値を大きくするとフィルターに“口笛”のようなキャラクターが得られ、さらに高い値に設定するとフィルターが自己発振を始めます。

レゾナンスは、4 つのフィルターモードすべてで同じように機能します。

ヒント: フィルターのカットオフ値を低く設定すると通常ではレゾナンスをより容易に聴くことができます。

スロープ

スロープは、カットオフフリークエンシーの上(ローパス)、下(ハイパス)、周囲(バンドパス)、または、中央(ノッチ)の周波数にフィルターによって適用する減衰のシェイプと強さのレベルを決定します。この設定は、“ポール”の数で表示されます。ポールの数が多いほどフィルターのレスポンスは急激になります。

スロープボタンをクリックし、使用可能なフィルタースロープを増やしたり(シフト+クリックで減少)、個々のスロープ設定をクリックして選択します。選択されている設定の LED が点灯します。

1-Pole - フィルターのカットオフフリークエンシーはオクターブ当たり 6dB です。例えば、ローパスでは、カットオフフリークエンシー(オクターブ)の 2 倍の周波数が 6dB 減衰します。この設定は、モードの中でもっとも急激でトーンの微妙なコントロールに最適です。

注: モードがバンドパス、ノッチに設定されていて、1-Pole が選択されている場合、フィルタースロープはオクターブ当たり 12dB です(2-Pole)。

2-Pole - フィルターのオクターブ当たりのスロープは 12dB です。例えば、ローパスモードでは、カットオフフリークエンシー(オクターブ)の 2 倍の周波数が 12dB 減衰します。

3-Pole - フィルターのオクターブ当たりのスロープは 18dB です。例えば、ローパスモードでは、カットオフフリークエンシー(オクターブ)の 2 倍の周波数が 18dB 減衰します。

4-Pole - フィルターのオクターブ当たりのスロープはもっとも急激な 24dB です。これは、Modular、Minimoog、Voyager までの Moog 製品のほぼすべてに採用されているクラシックな、そして美しい Moog フィルターのレスポンスです。

モード

このロータリーコントロールは、使用するフィルタータイプを切り替えます。過去の Moog ハイパスフィルターやバンドパスフィルターとは異なり、UA の設計では 4 種類のフィルターモードすべてにおいて Moog のセルフオシレーションを実現しています。

ヒント: モードボタンをクリックしてモードを選択することができます。

Lowpass - カットオフ値を超える周波数はフィルタリングされます。

Bandpass - カットオフ値の上下の周波数はフィルタリングされます。

Highpass - カットオフ値以下の周波数はフィルタリングされます。

Notch - カットオフ値を中心に狭い周波数帯域を中心に減衰します。

スムーズ

オン(デフォルト)にするとフィルターカットオフの動きをスムーズにし、周波数間の流動的なアナログスタイルのシフトをもたらします。急にカットオフの変更がオートメーションで行われるような場合など、この効果が望ましくない可能性があり、その場合、このオプションをオフにすることができます。スムーズは、ボタンが点灯している場合はオンになっています。

スペーシング

スペーシングは左右チャンネルのカットオフ値を反対側にオフセットします。言い換えると、ポジティブ・スペーシング値が右チャンネルのカットオフを増やす間に、左チャンネルはその逆に減らしていきます。

スペーシングは、Bob Moog の開発した楽器“Voyager”から移植され、最高で3オクターブ分、フィルターを激しくパンニングします。しかし、オリジナルとは異なり、両方のフィルターは一つの固定したフィルターに加え、調節可能なフィルターのピッチよりお互いのピッチから離れます。ポジティブまたはネガティブな値は左から右、ローからハイ、またはハイからローへとフィルターをディチューンさせてポジショニングさせることが可能です。

スペーシングは、大きなステレオ空間的エフェクト効果を生み出します。フィルターがモノモードである場合、両方のフィルターの音は聞こえます。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると値がゼロに戻ります。

アウトプットのコントロール

ボリューム

ボリュームコントロールは、プラグインのアウトプットでウェットシグナルとドライシグナルのゲインを設定します。使用可能な範囲は±30 dB です。

ボリューム LED

この3色LEDは、プラグインのアウトプットレベルを視覚的に表示します。アウトプットLEDは、バイパスになっている場合もアクティブですが、電源がオフの場合はオフになります。LEDが赤色の場合、アウトプットは0 dBFS です。

ミックス

ミックスは発生しているフィルタリングの量をコントロールします。本当の意味でのドライ/ウェット・コントロールではありません。ミックスがゼロの時、ドライブコントロールはアクティブで聴くことができます。

ヒント: ミックスをゼロに設定することは、バイパスをオンにすることと同じです。

モノ

左右のチャンネルフィルターはつねに独立しています。ただし、モノをオンにすると左右のアウトプットチャンネルがモノラルに合算されます。モノは、ボタンが点灯しているときはアクティブです。

バランス

バランスは、左右のチャンネルシグナルの相対的なボリュームをコントロールします。ゼロ(中央)に設定すると左右のチャンネルは、同じ音量になります。ノブを反時計回りに回すと右チャンネルが減衰し、時計回りに回すと左のチャンネルが減衰します。

(ステレオで動作中に) MONO がアクティブな場合はモノラルシグナルのパンコントロールとして動作します。

プラグインがモノイン/モノアウト・セッティングで使用されている場合、このコントロールは、中央の位置でロックされます。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると値がゼロに戻ります。

シーケンサー・セクション

メインインターフェイスの“Edit”ボタンは、シーケンサーインターフェイスを開きます。シーケンサーのすべてのコントロールについては、以下のセクションで詳しく説明します。

ヒント: シーケンサーインターフェイスの表示を切り替えるには、“Edit”ボタン、“SEQUENCER”(インターフェイス上部)、またはシーケンサーステップ LED エリア(Moog ロゴの左側)のいずれかの場所をクリックしてください。

シーケンサーについて

多くの場合、フィルターは有益であり、それに動きを加えるともっとも大きな影響を与えます。Moog Multimode Filter XL のエンベロープフィルターを LFO は、フィルターの動作にアニメーションやモーションを加えることができます。時間の経過とともに多種多様なパラメーターを正確にコントロールするためには、良いステップシーケンサーに代わるものはありません。

Moog Multimode Filter XL は、プラグインのパラメーター値を時間の経過とともにモジュレーションするためのフレキシブルな 16 ステップのマルチレーン・ステップシーケンサーを備えています。シーケンサーは、DAW(または Apollo の console ソフトウェア)と同期してあらゆるソースのサウンドの操作が可能です。

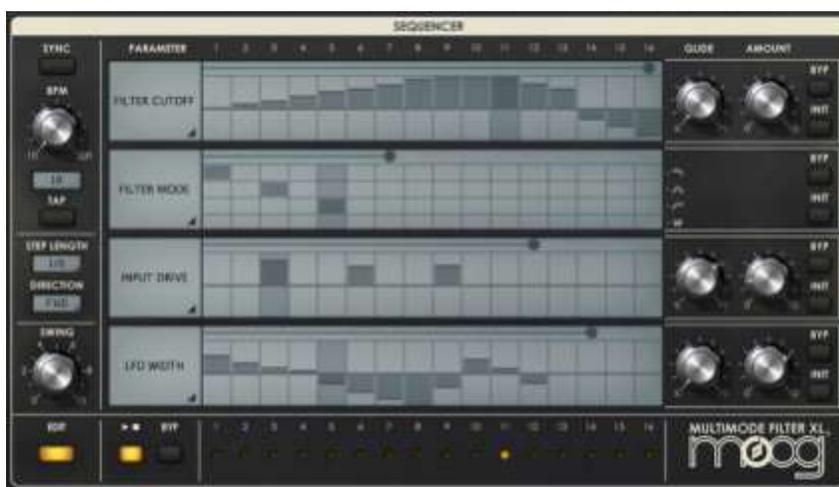
シーケンサーによって生成されたパラメーターのモジュレーションは、メインフィルタープラグインのインターフェイスで設定されている現在のパラメーター値(ディスティネーション)へのオフセットを行います。オフセット量は、レーンごと、ステップごとに調整可能です。パラメーターのディスティネーションは、連続、またはスイッチ・コントロールを指定することができます。

4 つのレーンを使用することができ、各レーンは独立したコントロールを備えています。各レーンは、1 つのパラメーターをコントロールするよう割り当てられ、複数のレーンで同じパラメーターをモジュレーションすることができます。複雑なポリリズムの相互作用を生成するためにレーンを異なるサイクルの長さに設定することができます。

各レーンは、16 ステップあり、バイポーラー(ポジティブ、ネガティブ)オフセットでディスティネーションパラメーター値をモジュレーションすることができます。ステップ(スイッチ)ディスティネーションは、各ステップで異なるスイッチ設定にすることができます。

シーケンサーには、グローバルステップレングス・マルチプル、スウィングコントロールなど、様々な方向に走らせる機能を備えています。

注: プラグインが DAW 内で使用されている場合の技術的な同期の制限により、シーケンサー動作とバウンスした場合の結果は、オフラインプロセッシング・モード(Pro Tools の AudioSuite など)で予期しない動作を行う可能性があります。



Moog Multimode Filter XL シーケンサーインターフェイス

シーケンサーのコントロール

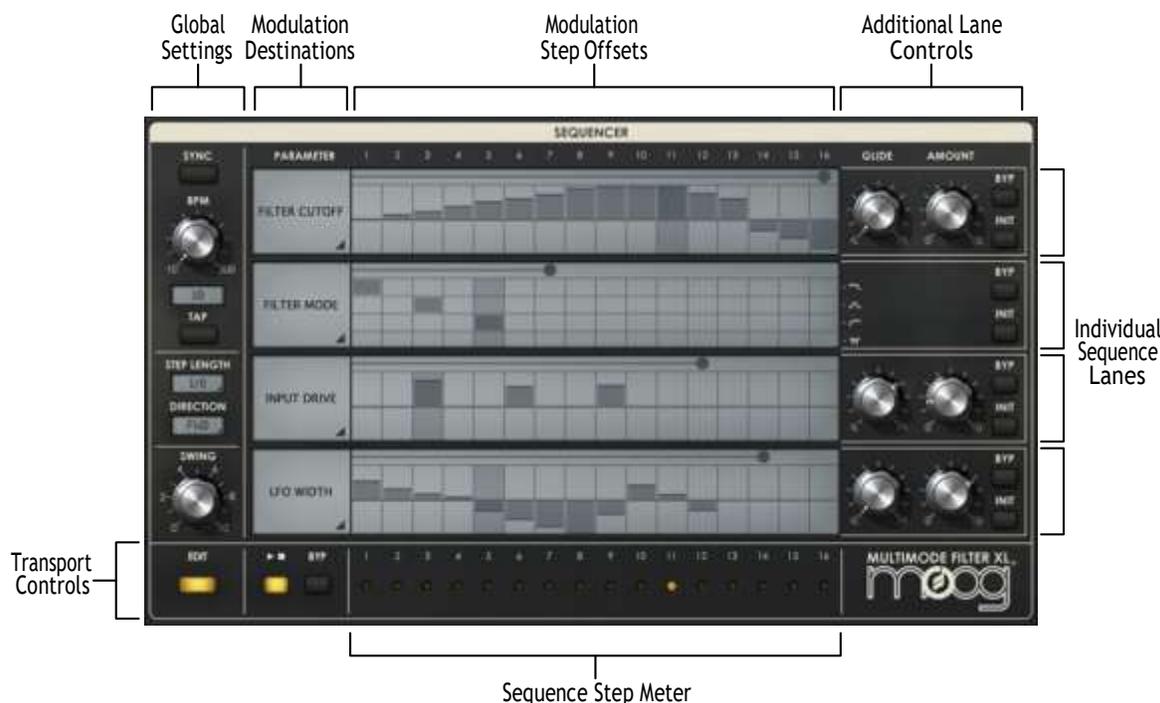
注: シーケンスレーンのステップ値を調整するには、プラグインをバイパスしてはいけません。シーケンスレーンが空白で調整できない場合、通常のディスプレイに戻り、入力コントロール・セクションのバイパスボタンを無効にしてください。

エディットビュー

プラグインウィンドウの左下にあるエディットボタンを押すとシーケンサーエディット・ビューに切り替わり、シーケンサーの設定にアクセスすることができます。シーケンサーエディット・ビューでエディットボタンを押すと消灯し通常の表示に戻ります。

ヒント: シーケンサーコントロール・インターフェイスの表示を切り替えるには、エディットボタン、“SEQUENCER”と書かれたラベル、シーケンサーステップ LED エリアのどこかをクリックしてください。

シーケンサーインターフェイス内のコントロールグループを以下に示します。



シーケンサーのコントロールグループ

シーケンサーステップ・メーター

シーケンサーインターフェイスの下部にある LED の列 (1~16) は、シーケンサーがアクティブなとき、現在のシーケンスステップを表示します。現在のステップの LED が点灯します。シーケンサーステップ・メーターも通常の表示で示されます。

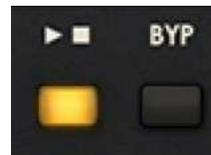
ヒント: シーケンスステップ・メーターの任意の場所をクリックするとシーケンサーエディット・ビューが切り替わります。

グローバル・シーケンサーコントロール

ヒント: グローバル・シーケンサーコントロールは、シーケンサーのすべてのレーンに影響を与えます。

トランスポート

トランスポートボタンは、シーケンサーのプレー/ストップをコントロールします。その動作は、シーケンサーのシンクがオンかどうかによって異なります。



バイパスコントロール(シーケンサー全体を無効にする)とは対照的にトランスポートボタンを使用してシーケンサーを停止すると、各シーケンサーレーンの現在のステップでのパラメーターオフセットはアクティブなままです。

SYNC Off - シンクがオフ (SYNC ボタンが消灯) でトランスポートボタンを押すと、シーケンサーは、BPM コントロールで指定されたテンポでステップ 1 の再生を開始します。トランスポートボタンを 2 回押すとシーケンサーが停止します。このモードでは、シーケンサーのテンポとプレー/ストップの状態は DAW とは独立しています。

SYNC On - シンクがオン (SYNC ボタンが点灯) でトランスポートボタンを押されている (またはオートメーション化されている) と、シーケンサーは、DAW のシンクして再生する「準備ができていることを示します。DAW のトランスポートがスタート、ストップされると、そのテンポやリズムカルなフェイズに合わせて動作します。トランスポートボタンを 2 回押すと同期がオフになりシーケンサーが停止します。DAW トランスポートが実行されているとき、トランスポートボタンを押してシーケンスを開始/停止することが可能です。

注: プラグインが Apollo の console ソフトウェアで使用され、シンクがオンになっている場合、シーケンサーは DAW のテンポではなく console ソフトウェアのテンポにシンクします。console にはトランスポートコントロールがないため、シーケンサーはシンクモードで再生ボタンが点灯すると常に動作しています。

バイパス (BYP)

バイパスを押すとシーケンサーは停止し、関連するパラメーターに与える影響は取り除かれます。バイパスがオンになっている場合 (BYP ボタンが点灯)、シーケンサーレーンは一時的にデフォルト状態に戻り、シーケンサーが無効になっていることを示します。

BPM 表示

シンクがオフのとき、このノブはシーケンサーのテンポを設定します。使用可能な範囲は、10 ~ 300 BPM です。シンクをオンにするとノブがロックされます。

ヒント: テンポは、テンポディスプレイで変更することもできます。

テンポディスプレイ

テンポディスプレイには現在の BPM 値が表示されます。

ヒント: テンポディスプレイをクリックして新しい値をテキスト入力することができます。

Tap

タップテンポ・ボタンを繰り返し押して、四分音符感覚で BPM を設定します。2 回以上押すと、タップ間の時間経過に合わせてテンポが設定されます。シーケンサーのシンクがオンになっている場合、タップは無効になります。

Sync

シンクは、テンポを DAW のテンポにロックします。ボタンが点灯しているときは、シンクが有効です。

ステップレングス

ステップレングス・ドロップメニューでは、各シーケンサーのステップの長さを設定します。これは BPM 設定に関連したリズムの値で表示されます。

ダイレクション

ダイレクションは、シーケンサーが動作するときのステップの移動方向を決定します。最後のステップは、常にレングスコントロールによってせっていされるステップであることに注意してください。

以下のダイレクションが選択可能です。:

フォワード(FWD) - 各レーンは、ステップ 1 から最後に指定されたステップまで移動します。

リバーズ(REV) - 各レーンは、指定されたステップから最後にステップ 1 まで移動します。

ピンポン 1(PP1) - 各レーンは、ステップ 1 から最後に指定されたステップまで移動し、その後は逆に進行します。

ピンポン 2(PP2) - 各レーンは、ステップ 1 から最後に指定されたステップまで移動し、その後は逆に進行します。ステップ 1 と最後のステップが繰り返されるので両方の方向で同じ数のすてっぷを維持でき、レーンをシンクさせたままにすることができます。

ランダム 1(RAND1) - シーケンスステップはランダムな順序で進行し、すべてのレーンは同じ順序で動作します。

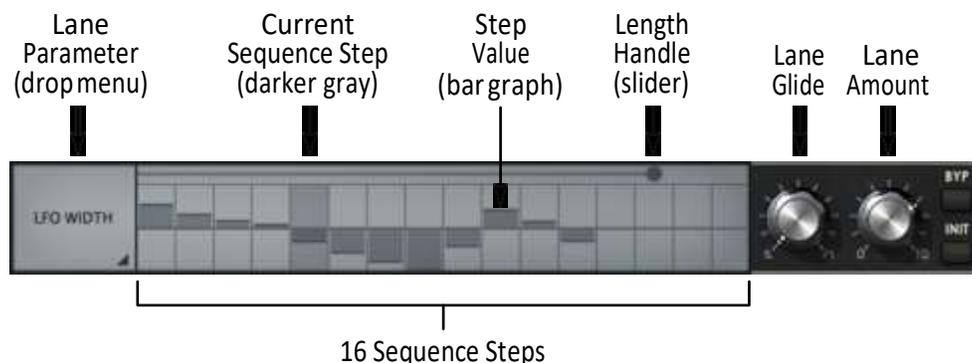
ランダム 2(RAND2) - シーケンスステップはランダムな順序で進行し、すべてのレーンはランダムな順序で動作します。

スウィング

スウィングは、シーケンスの他のすべてのステップに適用されるリズムオフセットの量を設定し、シャッフルリズムを作成することができます。ステップ数が偶数のシーケンスでは、“アップビート”ステップがスウィングされていることを意味します。値がゼロの時は、適用されません。

レーンコントロール

レーンコントロールは、シーケンサーレーン事に独立しています。このセクションでは、すべてのレーンコントロールについて詳しく説明します。



個々のシーケンサーレーンの構成

レーンパラメーター

シーケンサーの各レーンは、異なるディスティネーションパラメーターをモジュレーションすることが可能です。レーンパラメーターを選択するには、レーンパラメーター名をクリックしてドロップダウンメニューを表示し、メニュー内からパラメーターを選択してください。

一部のパラメーター（カットオフなど）は、コントロールレンジ全体で可変できる連続的なディスティネーションですが、切り替え式ディスティネーション（モードなど）は、コントロールで使用可能な設定の数に制限された個別の設定です。

連続可変のディスティネーション

各レーンは、以下の連続可変ディスティネーションにアサイン可能です。:

インプットドライブ	エンベロープアマウント	LFO ワイズ	LFO リセット
フィルターカットオフ	エンベロープセンシティ	LFO A レート	アウトプットボリューム
フィルターレゾナンス	LFO アマウント	LFO B レート	アウトプットミックス
フィルタースペーシング	LFO バランス	LFO A+B レート*	アウトプットバランス

***ヒント:** 他のすべてのレーンのディスティネーションとは異なり、LFO A+B レート・パラメーターは、メインインターフェイスの LFO コントロールセクションでは使用できません。このディスティネーションでは両方の LFO レートを 1 つのレーンでコントロールします。

切り替え式ディスティネーション

各レーンは、以下のステップ付のディスティネーションにアサインする事ができます。:

フィルターモード	LFO A ウェーブフォーム	LFO A ハイ	LFO リセット
フィルタースロープ	LFO B ウェーブフォーム	LFO B ハイ	アウトプットモノ

ステップ値

レーン内の 16 ステップのそれぞれは、アサインされたレーンパラメーター(シーケンサーエディット・ビューでないときに設定される現在のパラメータ値)の現在のコントロール値へのオフセットを表示します

注: シーケンスレーンのステップ値を調整するには、プラグインをバイパスしないでください。シーケンスレーンが空白で調整できない場合は、通常の見出しに戻り、インプットコントロール・セクションのバイパスボタンを無効にしてください。

ステップ値は、特別なタイプのコントロールです。このパラメーターには以下の制約が適用されます。:

- プラグインを DAW で使用する場合、ステップ値は DAW セッション内にセーブされます。しかし、オフセットの変更はオートメーション化されません。
- プラグインが Apollo の console ソフトウェア内で使用されている場合、アンドゥ/リドゥはステップ値の変更に使用できません。

ステップ値の動作、見た目は、後述するようにレーンパラメーターのディスティネーションが連続的なコントロール、またはスイッチ(ステップ)コントロールであるかによって異なります。

ヒント: オプション+クリック(Mac)、または ctrl+クリック(Windows)によってステップをデフォルト値に戻します。

連続可変値

レーンパラメーターが連続的なコントロール(フィルターレゾナンスなど)である場合、各ステップは、影付きの棒グラフによって元の値からのオフセット値を示します。連続ステップ値は、中心線より上のバイポーラーオフセットがレーンパラメーター値に加算され、中心線よりも下のオフセットが減算されます。



連続ステップオフセット値を設定するには、ステップ内の任意の場所をクリック、またはクリック+ドラッグするか、複数のステップに渡りクリック+ドラッグでパターンをドローイングしてください。

スイッチ値

レーンパラメーターがステップ状、またはトグルコントロール(フィルターモードなど)の場合、レーンは、グリッドとして表示されます。使用可能なスイッチ値は、レーンステップの右側に表示され、各スイッチ値は、レーン内に独自の行を持ちます。



シーケンスがステップに達すると、セルが選択されている(グレー)場合、パラメーターがその行の値に切り替わります。セルが選択されていない場合(初期値)、スイッチは変更されません。

ステップ値、トグル値を設定するには、ステップセルをクリックして強調表示をするか、複数のレーンステップをクリック+ドラッグをしてパターンをドローイングしてください。

組み合わせられた値

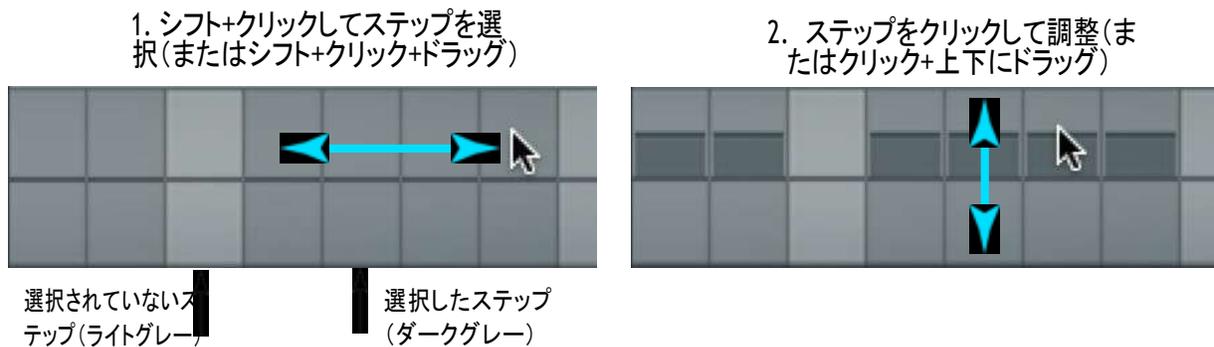
複数のステップ値は、調整前にステップを一括して同時に調整することができます。以下のようにステップ値を設定する作業は2段階のプロセスです。:

1. 調整を行う2つ以上のステップを選択してください: 任意のステップをシフト+クリックして選択した後に、レーンの他のステップをシフト+クリックしてすでに選択済みのステップ選択に加えてください。選択するとステップは濃いグレーで表示されます。

ヒント: シフト+クリック+ホールドして水平方向にドラッグすると複数のステップを素早く選択することができます。

2. ステップ値の調整: 選択したステップの任意の場所をクリックして値を設定するか、クリック+ホールドして選択したすべてのステップを同時に調整するために選択したで垂直方向にドラッグしてください。

ヒント: すべての組み合わせられたステップをデフォルト値に戻すには、任意のステップをオプション+クリックしてください。



連動したステップ値の選択と調整

レーンレングス・ハンドル

レーンは、16 ステップ以下でサイクルを再開するように設定されています。デフォルトでは、シーケンサーの各レーンはサイクルを再開する前に 16 ステップすべてを再生するように設定されています。しかし、16 ステップ未満でレーンを再始動することを必要とすることがあります。レーンを異なる長さに設定することにより、複雑なポリリズムを達成することが可能です。

各レーンの上部にはレングスハンドル(黒い丸)があり、最終ステップの位置を示しています。レングスハンドルを水平にスライドさせることで、そのステップを最後のシーケンスステップとして指定することができます。

レーンガイド

ガイドは、レーンが連続的に変化するパラメーター(ドライブなど)を調整している場合に使用可能です。ガイドは、ステップ館でパラメーターが変化する速度を設定します。

ゼロに設定した場合、各ステップは、ステップの値によってアサインされたコントロールを瞬時に変更します。ガイドを増加させるとステップ間の動きが滑らかに、そして速度が遅くなり、パラメーターの動作が流動的になります。

レーンアマウント

レーンパラメーターが連続可変のディスティネーション(フィルターカットオフなど)である場合にアマウントノブを使用することができます。アマウントは、レーン内のすべてのステップ値の全体的な範囲を調整することができます。

アマウントを増加させるとレーンパラメーターのディスティネーションへのステップ値のオフセットがより顕著になり、ゼロ(完全に反時計回り)では、レーンパラメーターはディスティネーションにモジュレーションを与えません。

注: アマウントが特定のシーケンサーレーンに対してハイに設定されている場合、そのレーンによって送信されたコントロールシグナルは、アサインしたコントロールの限界を下回るか、上回る可能性があります。これが怒ると、コントロールシグナルは、その限界値で“クリップ”し、アサインされたコントロールはコントロールシグナルがコントロールの範囲内の値に戻るまで極限の設定にとどまります。

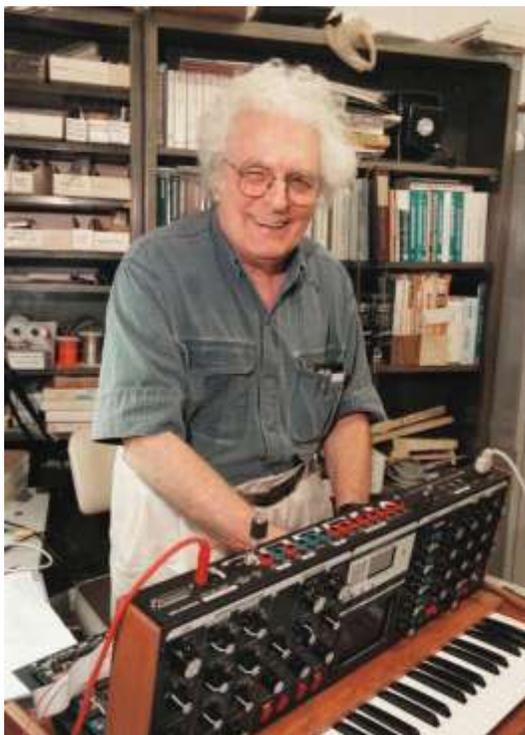
レーンバイパス(BYP)

バイパスボタンを押すと、レーンのステップ値処理が一時的に停止します。バイパス時はすべてのレーンコントロールが可能です。バイパス時はボタンが点灯します。

レーンイニシャルイズ(INIT)

イニシャルイズボタンを押すと、レーンのステップオフセット値がデフォルト値に戻ります。レンジス、グライド、アマウントの設定は影響を受けません。

レーンが連続可変コントロールにアサインされると、イニシャルイズはすべてのオフセット値をゼロに戻します。ステップコントロールにアサインされている場合は、すべてのレーンをクリアにします。



Moog Multimode Filter のコントロール

Moog Multimode Filterは左右のチャンネルに別々のフィルターを持つ、本当のステレオ仕様です。

二つのフィルターは同じコントロールを有しています。左右の二つのフィルターが分岐する唯一の時は、フィルター・スペーシングか LFO オフセットがゼロでないときです。



Moog Multimode Filter のインターフェイス

ドライブ/ゲイン

プラグインがフルバージョン、または SE バージョンであるかによってインターフェイス左上のノブは異なる機能、ラベルを提供します。ドライブキャラクターの非線形モデリングは、非常に DSP を消費します。このためドライブは Moog Multimode Filter SE では使用できません。Moog Multimode Filter SE では、パラメーターは、Drive ではなく、Gain と命名され、ストレート(モデリングされていない)インプットゲイン・コントロールです。

ドライブ/ゲインの範囲は 0~+40dB のゲインです。ドライブ/ゲインはウェット/ドライ・シグナルの両方に影響を与えます。(ミックスがゼロ、バイパスされているときにコントロールは聞こえます。)このゲイン・レンジは minimoog の外部入力セクションに非常に似せています。

警告:

これら入力構造の違いによるふる Legacy から SE へ、SE から Legacy へのプリセットのカット/ペーストは大きなゲインの違いを引き起こすかもしれません。この操作を行う場合、マスターフェーダーから手を放さないでください。

ドライブ (Moog Multimode Legacy のみ)

ドライブはフィルターの前のサチュレーション・ゲインの量を調節します。ドライブは Moog Multimode Filter の音の“本質”が始まる場所です。特にブーストスイッチと共に使用すると、クリーンな音をオーバードライブさせ、歪んだ音に変えることができます。

ゲイン (SE バージョンのみ)

クリーン(モデリングされていない)インプットゲイン・コントロール

ドライブ/ゲイン LED

ドライブ/ゲインのマルチカラーLED は、ドライブ/ゲインのコントロール直後にプラグインを表示します。ドライブ/ゲイン LED は、バイパスのときは動作しますが電源がオフの時は動作しません。

エンベロープ

エンベロープのコントロール(エンベロープ・ノブ、スムーズ/ファースト・スイッチ)は MF-101 Moogerfooger のコントロールを忠実に再現しています。しかし UA はネガティブ・レンジに独特のネガティブ・エンベロープ効果を与えることにより音のパレットを広げました。

Moog Multimode Filter のカットオフ・フリークエンシーはプラグインに入力されている信号の振幅によって調整することができます。カットオフ・フリークエンシーがインプット・シグナルのレベルを受けて動作するのでこの機能は通常“エンベロープ・フォロワー”または“オートワウ”と呼ばれています。エンベロープ・レスポンスの量と速度は調節可能です。

エンベロープ・ノブはフィルターのカットオフ・フリークエンシーがどれくらいのインプット・レベルに影響を受けるか決定します。ポジティブ(正)とネガティブ(負)両方の値を設定可能です。ポジティブの場合、インプット・シグナルが大きくなるとフィルターが開き(フィルター・カットオフを増やし)、ネガティブの場合、インプット・シグナルが大きくなるとフィルターが閉まり(フィルター・カットオフを減らします)。

値(ポジティブ、またはネガティブ)がより大きいほど、フィルター・モジュレーションの量は大きくなります。(カットオフ・フリークエンシーのレンジはより大きな値で増やされます)

ヒント: *ENVELOPE* ノブ・ラベルをクリックすると値をゼロに戻すことが可能です。

エンベロープ LED

この LED はエンベロープのピークを示します。エンベロープ LED はプラグインがバイパス・モードのときやパワーがオフのときには点灯しません。

スムーズ/ファースト

トグルスイッチはエンベロープのリリース・タイムを決定します。スムーズ・モードでのリリース・タイムは 200msec です。ファースト・モードでのリリース・タイムは、40msec です。アタック・タイムは両方のモード共 25msec です。

主な使用法としては、ファースト・モードはパーカッシブな音に合います。スムーズ・モードは長い音や長いディケイを持つ音に適しています。

カットオフ

このパラメータはすべてのモード(ローパス、バンドパス、ハイパス)でのカットオフ・フリークエンシーを決定します。UAは、Multimode Filter Legacy 上で適応する周波数帯を、MF-101 Moogerfooger では 20Hz~12kHz だったものを、12Hz~12kHz にまで広げました。

ローパス・モードではカットオフより上の周波数にフィルターがかかります。ハイパス・モードではカットオフより下の周波数にフィルターがかかります。バンドパス・モードではカットオフの値は中心の周波数帯です。この周波数帯の上下に対してフィルターがかかります。

レゾナンス

レゾナンスはフィルター・フィードバックの量を決定します。それはカットオフ・フリークエンシーで倍音を強調します。より高い値はフィルターに「口笛」を吹いているような効果を生じさせます。そして非常に高い値にした場合、フィルターは自己発振(セルフ・オシレート)を起こす場合があります。

レゾナンスは3つのフィルター・モードすべてで同じ動作をします。

ポール(スロープ)

フィルター・スロープはこのスイッチで決定されます。スロープはローパス・モードで設定したカットオフより上(ハイパス・モードでは下)の周波数帯がどれくらいのカーブでフィルターをかけるかを設定します。

2-Pole

2ポール・モードではフィルターは1オクターブにつき12dBのスロープを持ちます。たとえば、ローパス・モードではカットオフ(オクターブ)の二倍である周波数は12dB減衰されます。2ポール・フィルタリングは4ポールよりも攻撃的ではありませんが、その独特なサウンドに合ういくつかの信号を探し当てることができます。

4-Pole

4ポールモードは1オクターブにつき24dBというより急なスロープを持つので、フィルタリングはより明確です。これはModularに始まりMinimoog、Voyagerへと続く、あらゆるMoogプロダクトに採用されてきた“クラシック”(そして美しい)Moog Multimode Filterです。

ステップ/トラック

このスイッチはフィルターのカットオフ・フリークエンシーのスムージング・コントロールを行うものです。ノブ、またはオートメーションで速くカットオフを変更する場合、スムージングは連続したフィルターのスイープに影響を与えます。オートメーションで急激なカットオフの変化を求める場合、ステップ・モードが適しています。

スムージングはトラック・ポジションで有効です。ステップ・ポジションでは無効です。

注:トラックに設定した場合、プラグインはシンセサイザー・フィルターのようなインプット・シグナル・フリークエンシーをトラッキングしません。

モード

このコントロールはMoog Multimode Filterの核心部です。そして1つのコントロールでMoogのクラシックなローパス・フィルターをハイパス、バンドパスと結合します。過去のMoogハイパスやバンドパス・フィルターと異なり、UAの設計では3つのすべてのモードでMoogらしいセルフ・オシレーションを発生させます。従来のMoogフィルター・デザインに洗練された新しいレベルを提供します。ノブは使用するフィルターのタイプで変わります。

Lowpass

カットオフ値を超える周波数はフィルタリングされます。

Bandpass

カットオフ値の上下の周波数はフィルタリングされます。

Highpass

カットオフ値以下の周波数はフィルタリングされます。

スペーシング

スペーシングは左右チャンネルのカットオフ値を反対側にオフセットします。言い換えると、ポジティブ・スペーシング値が右チャンネルのカットオフを増やす間に、左チャンネルはその逆に減らしていきます。

スペーシングは、Bob Moog の開発した楽器“Voyager”から移植され、最高で3オクターブ分、フィルターを激しくパンニングします。しかし、オリジナルとは異なり、両方のフィルターは一つの固定したフィルターに加え、調節可能なフィルターのピッチよりお互いのピッチから離れます。ポジティブまたはネガティブな値は左から右、ローからハイ、またはハイからローへとフィルターをディチューンさせてポジショニングさせることが可能です。

スペーシングは、大きなステレオ空間的エフェクト効果を生み出します。フィルターがモノ・モードである場合、両方のフィルターの音は聞こえます。

ヒント: テキストラベル“SPACING”をクリックすると値がゼロに戻ります。

LFO

LFO(ロー・フリークエンシー・オシレーター)はフィルター・カットオフ・フリークエンシーを調整します。いくつかの波形のシェイプを使用可能です。LFO はホストのテンポに同期させることが可能です。(後述のフリー/シンクを参照)

アマウント

アマウントは、LFO のフィルター・カットオフ・モジュレーションの深さをコントロールします。より高い値は、より幅の広いフィルター・スイープを生み出します。

レート

レートは LFO のスピードをコントロールします。範囲はフリー・モードで 0.03Hz~25Hzまで、シンク・モードでは 16/1~1/64 までです。

レート LED

LFO レート LED は LED レートに同期 (LFO サイクルにつき一度) して点灯します。この LED をクリックすると LFO サイクルをリセットします。

LFO リセット

LFO レート LED をクリックすることにより LFO のレートをゼロにリセットすることが可能です。このパラメーターはミックスやバウンス時にオートメーション化することが可能です。

通常 LFO は“フリーランニング”ですが、この状態が望ましくない場合もあります。たとえば、LFO フィルターモジュレーションを使用しているときにミックスやバウンスをする際、サウンドが常に同じ LFO の周期で再生したいと望むことがあります。これを達成するために LFO は LFO 波形の同じ場所 (ゼロクロス・ポイント) で始まるように設定可能です。LFO を使用する場合、このリセットは音の一貫性を生み出します。

フリー/シンク

このスイッチは LFO がホスト・アプリケーションのテンポに同期するかどうかを決定します (この機能をホストがサポートしている場合)。

注: 詳細については UAD システムマニュアルの“テンポシンク”の章を参照してください。

シンク・モード中は、LFO の位相が一貫させるためにリセット・パラメータをオートにしてください。

バリュー

バリューディスプレイはフリー/シンク・スイッチの設定によって異なります。値は、フリーモードでの LFO フリーケンシーとシンクモードでは同期したテンポを表示します。

ウェーブ

このコントロールは LFO に使用する波形の形を選択します。

6つの波形を使用可能です。: Sine、Triangle、Sawtooth-Up、Sawtooth-Down、Square、Random

オフセット

オフセットは左右チャンネル間の LFO シグナルの極性を調整します。調整可能範囲は ± 180 度です。

オフセットは大きなステレオ空間を与えるエフェクト効果を作り出します。フィルターがモノ・モードの場合、両方のフィルターの音が聞こえます。

ヒント: テキストラベル“OFFSET”をクリックすると値がゼロに戻ります。

ミックス

ミックスは発生しているフィルタリングの量をコントロールします。本当の意味でのドライ/ウェット・コントロールではありません。MF-101 Moogerfooger のミックス機能を忠実に再現しています。ミックスがゼロの時は、ドライブ/ゲイン・コントロール (SE 以外のバージョンではブースト) は、アクティブなままで聴こえてきます。

ミックスをゼロにした場合、エフェクト/バイパス・スイッチでバイパスを選択したのと同じ効果を得ます。

ステレオ/モノ

Moog Multimode Filter の左右チャンネル・フィルターは通常では独立しています。しかしこのスイッチがモノに設定されると左右の出力チャンネルはあわせ合計されます。ステレオ・モードでは左右のチャンネルは別々になっています。

アウトプット

アウトプットコントロールはプラグインのアウトプットゲインを調整します。利用可能な範囲は $\pm 20\text{dB}$ です。

アウトプット LED

プラグインのアウトプットレベルを視覚的に確認することができます。バイパス時は、アクティブですが、電源オフ時は、オフになります。LED が赤色の場合、出力は 0dBfs です。

エフェクト/バイパス

バイパスが有効になっている場合、フィルターは動作しません。ドライブ/ゲインとアウトプットはバイパス・モード中でも動作しています。バイパスを有効にするとミックスをゼロにするのと同じ効果を得ます。

フリー/シンク・スイッチがフリーに設定される場合、バイパスがエフェクトに切り替えられると LFO フェイズはゼロにリセットされます。

ブースト

ブーストは最大 20dB “ドライブ” のゲインを増加させます。これは、Minimoog の外部入力を使用した効果を再現しています。

注: このコントロールは SE バージョンでは使用できません。

パワー

パワーはオフにすることにより、プラグインを無効にし、DSP 処理の負担を軽減することが可能です。オフ時にはバックグラウンドは、Voyager と同じように薄暗くなります。

Moog Multimode Filter SE

Moog Multimode Filter SE は、Moog Multimode Filter から派生したものです。Moog Multimode Filter と非常によく似た音質キャラクターを持ちつつ DSP の使用率を大幅に削減するためにアルゴリズムが改訂されています（主にドライブサーキットが削除されています）。DSP リソースが限られている状況下で Moog Multimode Filter を使用する際に利点があります。Moog Multimode Filter SE のサウンドはドライブなしでも素晴らしいサウンドを発生し、多くのシチュエーションで使用可能です。

Moog Multimode Filter SE のインターフェイスは、色とモジュール名で Moog Multimode Filter と区別することができます。Moog Multimode Filter SE は、Voyager の“セレクトシリーズ”から借用した“Luna”バックグラウンドとメイプルサイドパネルを使用しています。Moog Multimode Filter は、Voyager の“エレクトリックブルー”のバックライトとマホガニーのサイドパネルを採用しています。



Moog Multimode Filter SE のインターフェイス

Moog Multimode Filter SE のコントロール

Moog Multimode Filter SE のコントロールは Moog Multimode Filter とほとんど同じです。ただし、ドライブ関連のコントロールは SE モデル上では使用できず、“ドライブ”はモデリングされずに“ゲイン”コントロールに置き換えられています。

*注: Moog Multimode Filter から SE バージョンにプリセット・セッティングがコピーされる
とき、パラメーターが SE バージョンでは使用できない場合でもブースト・スイッチの値
(+20) は保持されます。SE バージョンから Moog Multimode Filter へコピーする場合、
元のブースト値はペーストされません。*

Moog Multimode Filter Collection FAQ

Moog Multimode Filter XL と Moog Multimode Filter では、どんな点が違いますか？

Moog Multimode Filter プラグインの一部の機能は、オリジナルの Moog Multimode Filter プラグインと同等ですが、Moog Multimode Filter XL は、大幅に拡張されたサウンドクリエイションとクリエイティブなエフェクトパレットを提供します。UA は、モデリングした Moog ラダーフィルターのアナログ動作を改善し、オリジナルの非線形動作を拡張してセルフオシレーションとサチュレーションを完璧に再現しました。

フィルターセクションには、1、2、3、4 ポールのスロープ、20 Hz~20 kHz のカットオフフリークエンシー・レンジを持ち、既存のフィルタータイプにノッチフィルターを加えました。

エンベロープサーキットは、ドライブサーキットとは独立しており、エンベロープエフェクトの調整に精度を加えます。エンベロープセクションでは、センシティブティ、アタック、リリース、フィルターカットオフ、レゾナンス、モジュレーションアマウント、レート、そしてそれらの任意の組み合わせのエンベロープディステーションの選択肢が加えられています。

拡張したデュアル LFO モジュレーションセクションは、新しいスルードランダム、オーディオレート LFO スピード、バランス、ワイズ・コントロールを含む LFO レートと波形の選択を提供します。

最後に 4 レーンの 16 ステップシーケンサーは完璧な機能を備え、メロディやポリリズムパターンのプログラミングからカオスな不協和音まで無限の可能性を発揮します。

Moog Multimode Filter XL はバーチャルインストゥルメントですか？

Moog Multimode Filter XL には、VCO や標準的な MIDI コントロールが無いため、既存の楽器やその他のトラックを補完、拡張するように設計されています。Moog Multimode Filter XL の深みと幅広い機能によりシンセサイザー、アナログキーボード、ギター、ベース、ドラムなどを使ってリアルタイムのパフォーマンスを実現する“インストゥルメントのような”プロセッサとなります。

どんなときにオリジナルの Moog Multimode Filter プラグインを使用すると効果的ですか？

Moog Multimode Filter は、よりシンプルなワークフローや処理、または非常に低い DSP 負荷が望ましい場合に理想的です。collection には、Moog Multimode Filter SE も含まれており、これは理想的なノンクリッピング・フィルターサウンドが望ましい場合に便利です。

UA は、Moog Multimode Filter XL プラグインを作成するためにどれくらいの期間がかかりましたか？

UA の Moog Multimode Filter Collection は、サードパーティの設計で唯一 Moog から認可を得て作成されています。Moog 製品の新旧両方の機能を引き継ぐ新しい Moog Multimode Filter XL は、Moog Music と Universal Audio が 1 年間かけて開発を行いました。

Moog の主任研究員である Cyril Lance と協力して開発された UAD Multimode Multimode Filter XL は、デジタル空間にしか存在しない組み合わせられた“夢のような”デスクトップ・フィルターセットを生み出しました。Moog のクラシックなインストゥルメントデザインと Minimoog、Voyager、Sub 37、Sonic Six、Moogerfooger シリーズや Ladder 500 の各機能が組み合わせられています。

(続く)

これらのターゲットデバイスの回路設計、アナログサウンド、挙動については、UA のアルゴリズムチームによって長年研究されてきましたが、一方でエレクトロニックミュージシャンから相談のあった 4 レーン、16 ステップのシーケンサーのリクエストに応え、このデスクトップフィルターセットを楽器のように仕上げました。

私のアナログ Moog Filter はローパスモードでのみセルフオシレーションします。Moog Multimode Filter Collection プラグインでは、他のフィルターモードでもセルフオシレーションするのはなぜですか？

Moog Multimode Filter Collection プラグインは、この件のように“現実を超えて”進化し、アナログ機材では不可能なセルフオシレーションをクリエイティブに使用することが可能です。



Dr. Robert Arthur Moog

Moog®は Moog Music, Inc.から許諾を得てライセンスを受けた商標です。Moog Music の Cyril Lance、Amos Gaynes、Trent Thompson、Universal Audio アーティストの Gary Hull の多大な貢献に感謝の意を表します。

